

p. 17-p. 36 Part②：高等教育におけるカリキュラム国際化がもたらすもの：変革理論から学ぶ違う視点

個人の気づきから、相互分野や部門間、組織や社会へ

#### 【Part 1 からの主な論点】

● カリキュラム国際化とは、教育内容だけでなく、学習成果、評価、指導方法、支援体制に国際的・異文化的要素を統合する包括的プロセスです。これは単なるプロジェクトではなく、制度全体の文化と価値に関わる組織的課題です。

● 博士研究では、変革理論を応用し、国際化を動的な組織変革として捉え、戦略（なぜ）、内容（何を）、プロセス（どうやって）の包括的で構造化されたフレームワークで分析します。資源管理（財政・人材）、ステークホルダーとの関与（職員・学生）、戦略整合（上位方針との一貫性）を重視。

#### 研究の目的と手法

- 目的：変革理論に基づき、理論に基づいた新たな包括的視点と実行可能なプロセス戦略を開発する。
- 方法：325本の文献レビュー（2000～2020年）、29名へのインタビュー、4つの学士課程での指導、など。

#### 【重要な枠組みと手法】

- ・ 動的リソース基盤：人的・財政的資源の柔軟な活用、能力の認識と強化。
- ・ 二元的視点：矛盾する要素（例：グローバル vs ローカル）を統合し相乗効果を生む。
- ・ PDCA サイクル：組織的な変革理論を適応する。

#### 【課題と提案】

- ・ 概念の曖昧さと相互理解の不足、認識・リーダーシップ不足
- ・ 人的・財政的資源の不整合、分野・部門間横断の軽視

→ 具体的対策として、文脈の診断、全ての関係者の巻き込み、定性的指標の活用、専門能力開発の継続的支援が挙げられています。

本研究は、国際化と多様性を「意味あるもの」にするための実践的・理論的ガイドとなるものです。

#### 【欧州の事例：European University Alliances】

- Erasmus+の一環で2019年に開始。現在65の連携、570大学が参加。
- 共通の戦略・ガバナンス・教育空間の創出
- 学生・教職員・社会の連携強化、グローバルかつ地域的課題への対応
- 成果：多様性の尊重、持続可能性、影響志向の教育変革

### 【欧州からの学び】

European University Alliances（欧州大学連携）は、国境を越えた教育・研究連携を進める枠組みであり、カリキュラム国際化の実践例として紹介されました。多様性、持続可能性、社会的包摂を柱とし、教職員・学生の主体的関与と戦略的連携が求められます。

- トップダウンとボトムアップの融合

- シニアマネジメントからの強い意志